

寺井町町内会役員会とのタウンミーティング

日 時 令和6年4月27日（土）16時30分～17時40分

会 場 寺井町多目的ホール

参加人数 22人

1) 開会

2) 寺井町会長 ご挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

・3月30日に「折り紙で作った電車の最多展示数」でギネス世界記録を更新した。これまでは佐賀県嬉野市が西九州新幹線開業のときに作った1万9,000枚がギネス記録であった。北陸新幹線県内全線開業に合わせて、能美市でその記録を抜こうと、開業日が2024年3月であることから目標枚数を2万243枚と設定し、市民の皆さんに折り紙を折っていただいたところ、何と能美市の人口の倍以上の12万枚も集まった。ただ、中には折り曲げ方等で基準を満たせないものもあり、結果は8万2,034枚となった。この数値を覚えていただくため、「やったぜ、にっこり、の、み、し」という語呂を作った。令和6年度末まで市役所に、折り紙を飾っておく予定であり、大変多くの皆さんが見に来られている。

○令和6年能登半島地震

・市内でも震度5強を観測する地震に見舞われ、人的な被害はなかったものの、緑が丘の道路崩落や美化センターののり面崩落、市内全域でマンホール周辺の道路陥没等が生じた。

また、九谷焼の被害も多かった。約1,200件の罹災証明が出ており、市内の復興・復旧に取り組むため、6億円余の予算を組んで対応している。

- ・地震の後、市内の被災状況を確認するとともに、避難所を開設した。元日だったということもあり、避難所を開設に手間取ったり、避難所に指定されている根上総合文化会館の暖房が地震で壊れ、福島グランパークにある企業に避難所を開設してもらったりと、様々な対応が求められた。

- ・能登への支援としては、能登へ市職員の出向、消防車や救急車、給水車、パッカー車の派遣、支援物資の受付等を行った。

- ・市内の旅館やホテルに二次避難所、辰口福祉会館に広域避難所を開設した。ご友人や親戚に身を寄せていらっしゃる方等を含めて、最大で250名以上の避難者がいらっしゃった。今も130名ぐらいの方が避難されている。一緒に避難してきたペットへの対応も行った。

- ・避難者の様々な要望を聞いたり、困り事に対応したりするために、サポート窓口を開設した。また、避難が長期間に及ぶということから、移動支援、運動不足予防の取り組み、散髪、趣味の安らぎ時間の提供等も行っている。

- ・能登の復興・復旧が果たされるまで、心に寄り添った支援をしていきたいと思っており、ぜひ寺井町会の役員の皆さんのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

○能美市を取り巻く情勢と課題

- ・現在、能美市の高齢化率は約26%であり、人口が少し減ってきている状況である。

- ・社会インフラの老朽化について、特に老朽化が激しいのは、学校である。市内に小・中学校が11校あるが、そのうち築50年以上のものは、面積比で35%あり、それをどうやって長寿命化するか、あるいは建て替えていくかということが大きな課題となっている。

- ・税収が好調であり、令和元年に初めて市税の合計が90億円を超えた。令和4年も90億円を超え、令和5年も恐らく90億円を超えるのではないかと思っている。この一因として、企業誘致による固定資産税や法人税の増収があげられる。半導体を作る会社は社屋も大きい、工場内の機械も非常に高額であり、固定資産税の増収に繋がっている。福島グランパークにも企業の進出があり、性別や世代を問わず、働ける場所が市内に増えてきており、大変ありがたい状況である。

○令和6年度当初予算

- ・過去最高額の275億円を当初予算に計上している。

○事業・施策の方針と目的

・人口増が自治体の勢いを表していると考えから、私が市長になって以来、全ての事業施策が移住・定住の促進につながるという方針を採っている。人口増には、自然増と社会増があり、能美市は今、社会増であるものの自然減がずっと続いており、特にコロナの感染拡大時に生まれた赤ちゃんの数が大きく減ったことで、今も自然減を社会増でカバーできていない状況である。

・一方で、外国人の数が増えており、県内19市町の中で、能美市は外国人の人口当たりの比率がナンバーワンとなっている。4月23日朝時点で、外国人の人数が過去最高の1,488人となった。これには2つ要因があり、北陸先端科学技術大学院大学の留学生と市内企業で働く外国人が多いことがあげられる。一番多いのがベトナム人で約500人、続いて中国人であり、最近ミャンマーの方も多くなっていると聞いている。

(防災減災対策)

- ・能登半島地震を受け、耐震化や改修に係る費用の補助額を上乗せした。
- ・現在、ハザードマップを紙で出しているが、災害時に携帯で見ることができるようデジタル化を進めている。
- ・一昨年の大雨で、鍋谷川があふれた。梯川の傾斜が緩く、なかなか海に流れないことが原因の一つとなっており、鍋谷川にバックウォーターしないように梯川の工事が進んでいる。また、県・国に鍋谷川で特に被害が多かった和気小学校付近の川幅を広げ、底にたまった堆積土砂を取るというようなことをしてもらっている。
- ・西川、熊田川も手取川の水が多くなると、バックウォーターするので、それを防ぐために門を造る工事が間もなく始まる。また、しらさぎ団地付近も大きな水がついてしまったので、川幅を倍にして、大雨が降っても同じような状況にならないようにしようとしている。
- ・手取川宮竹用水と協定を結び、宮竹用水を大雨のときに排水路として使えるようになった。これによって、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことができる。
- ・これまでは防災行政無線やホームページで災害情報をお知らせしていたが、どこにいても情報が受け取れるようにLINEを取り入れた。災害情報だけでなく、イベント情報など能美市の様々な情報を配信しているので、お友達登録がまだの方はぜひ登録してほしい。

(市民力・地域力の強化)

・町会や各種ボランティアの活動から、能美市の市民力・地域力は高いと感じていたが、今、壮年団や女性会に入る方が減ってきている。価値観が変容しており、以前は横の繋がりを広げるために壮年団等に所属する時代であったが、今は携帯で簡単に情報が取得・交換できるようになった。ただ、災害時や困ったときに助け合えるよう市民力・地域力を強化していかなければならないと思っている。

・市民力・地域力強化の取り組みの一つとして、来年2月が能美市誕生20周年という記念すべき年であるので、様々なイベント等を行っていきたいと考えている。また、能美市全体で20周年をお祝いするため、町会・町内会への補助金を新設した。基礎額が20万円で、50世帯ごとにプラス2万円となるので、ぜひ活用していただきたい。

・能美市の歴史をしっかりとひも解いて保存をしておくために、市史の編さんを今始めている。

・健康ロードの路面補修や街灯整備を順次始めており、駅があった場所には案内看板をつけるとともに、QRコードを掲出し、周辺施設紹介も行いたいと考えている。全長16kmもあるので、お金も時間もかかるが、能美電が開通して100年、廃線になって45年、能美市が誕生して20周年を迎える2025年秋の完成を目指して進めている。

・競技力向上や学校の先生の働き方改革のため、一般の皆さんに支援していただき、地域全体で部活動を担う体制へと段階的に移行する。

・学校給食の無償化を昨年度の2学期から中学生、3学期からは小学生も含めて行っている。1年間でこの無償化にかかる費用が約2億5,000万円と高額であり、市の負担は大きい。急激な物価高騰により子育て世代の生活に影響が出ているので、無償化を推し進めた。

・学校の校舎が老朽化してきており、建て替えに膨大な費用が必要となるが、一斉に対応することはできないので、まずは安全・安心な給食を児童・生徒に食べてもらうため、給食センターを今、建築している。辰口地区には既に給食センターがあるので、この度造る学校給食センターで寺井地区と根上地区の小中学校の給食をまかなう。

・寺井町関連の話題と言えば、健康福祉センター「サンテ」をリニューアルオープンしたことがあげられる。健康増進と子どもの育成を担う施設ということで、色分けによりエリアをわかりやすく表示するとともに、こども家庭センターをつくって、子どもがおなかの中にいるときから大きくなるまで切れ目のない相談体制を整えた。

・寺井分室がだんだん手狭となって、会議もできないような状態になってきたので、寺井サービスセンターの増築工事を行っている。近くには保育園や子育て支援センターもあり、子育てをしているお母さんたちが子どもと一緒に手続きに来られるケースを想定し、気軽に安心して手続きができるような施設にした。

・亀齢荘も古いので、新しく建て替える。ここは、もともと高齢者の皆さんが利用するような施設であったが、建て替え後は地域共生交流館ということで、障害をお持ちの方やお子さん等も行きやすい、行ってもらえる施設として、様々な世代の人たちが交流できる場所となる予定である。

（地域ブランドの確立）

・幸福度と暮らしやすさを数値化したウェルビーイング指標によると、市民が能美市で弱いと感じている部分は、「買物・飲食」、「遊び・娯楽」、「移動・交通」の3つであった。ただ、私としては、「遊び・娯楽」の部分では、いしかわ動物園や手取フィッシュランドがあり、能美市は県内で一番施設が揃っていると思っている。「買物・飲食」の部分では、肉屋、菓子屋、靴屋等、のみ商業協同組合のお店が数多くあるので、どうやってこれら項目の満足度を高めていこうかと考えている。また、福島グランパーク内に約7haの商業施設も造られる予定である。

・「遊び・娯楽」で、今、市内にある施設を少しずつブラッシュアップしていきたいと考えており、和気の岩にあるドッグランを大型犬も遊べるようにリニューアル予定である。

・能美市のお土産品を販売しているところが少ないので、辰口フラワーハウス跡地に道の駅機能を持った施設を造り、辰口丘陵公園やいしかわ動物園に遊びに来た人に、能美市のお土産を買って帰ってもらえるようにしたい。

・ふるさと歴史の広場はリニューアル以来、多くの方にご利用いただいている。また、根上体育館の横に能美シーサイドプレイパークが今日オープンした。翠ヶ丘運動公園も今までにないような施設にしたいと考えている。

・農業については、特産品をいかに開発をしていくかということが大切で、担い手を確保するとともに、正当な利益を生むために、しっかりと支援をしていきたいと思っている。

・「移動・交通」の部分としては、北陸新幹線開業でＪＲ北陸本線がＩＲに経営が移管されたことに伴い、能美根上駅の電車の接近メロディーを能美市出身の加賀大介さんが作詞した夏の甲子園のテーマソング「栄冠は君に輝く」に変更した。また、残念ながら電車の

運賃が高くなってきているので、何とか利用者の落ち込みが少なくなるように、I Rの定期券をお持ちの方は、のみバスの定期券を半額にする取り組みを始めた。

- ・のみバスのダイヤ、ルートを見直し、8の字を描くようなルートとなったので、今までよりも目的地に行くまでの時間が短縮され、結果的に本数が増えたというような印象を持ってもらえるようになっている。

- ・企業誘致が好調な分、その人材を確保するために住む場所が必要である。市では宅地の開発に力を入れており、和光台5丁目や末信町の保育園跡地、吉原釜屋町の鉄道側のところが今宅地となっている。また、金沢大学の所有地だったところに能美東西連絡道路を通し、加賀産業開発道路に繋げるということを計画している。

- ・保育園の民営化に取り組んでおり、これまで市内の15保育園は全部公営だったが、まずは福島保育園を民営化した。民営化を進める理由はいくつかあり、民営の保育園でしか教えられる幼児教育があることや先生の確保のしやすさ等があげられる。そういった理由で民営化を進め、今年度から湯野保育園と緑が丘保育園が新たに民営化となった。

- ・シティプロモーションとして、松井さんに協力いただいたり、シナモロールを使ったり、様々なイベントを行ったりしている。

(インクルーシブシティ構想)

- ・インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味であり、能美市に住んでいらっしゃる健康な人も、障害をお持ちの人も、高齢者も、子どもも、外国人も、全ての人が安心・安全、快適に暮らせるというのが地域共生社会、インクルーシブシティである。その実現に向けて、デジタルの力を使って様々な取り組みを行おうというのが、スマートインクルーシブシティ構想である。

- ・携帯電話等で注文した商品を公民館に届ける「スマート物流」をお店が少ないような地域から始めようと考えている。また「ライドシェア」や、公民館でオンラインによる医師の簡単な診察を受け、薬の処方を受ける「オンライン診療」を里山地区で行おうと考えている。

- ・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなくなってしまうということが発生したので、カルテを電子カルテとして共有化しようとしている。石川県ではそれがもうID-Linkとして始まっており、今回の能登半島地震の時に役立った。地震による倒壊でカルテが取れなくなったり、被災者が散らばって避難したりするときに、

I D－L i n kで診療情報を見ることで、他のお医者さんでもその方がどんな薬を飲んでいたか等が分かるようになる。市内には3つの病院と21のクリニックがあるが、能美市版として、カルテを全部同じ電子カルテにし、市民の診療情報を共有して、様々な面で役立てていこうとしている。

- ・独り暮らしの世帯が今2,600ぐらいあり、様々な機械を使って見守りを行う「デジタル見守りサービス」を考えている。

- ・電子通貨の新しい仕組みを導入しようと計画している。電子通貨により、皆さんのお買い物の利便性が高まるだけでなく、これまで広報に入れたり、郵送したりしていた「のみ応援特典券」を電子で送れるようになる。また、子どもを持つ家庭に配付している「すくすく助成券」なども電子で配信できるようになり、安い経費で確実に届けられることとなる。

3) 質疑応答

質問1

【参加者】

・市へ問い合わせたところ、のみ応援特典券の配付対象者は2月1日に住民登録がある人で、それ以降に転入してきた人は対象外とのことだった。特典券は5月末まで使用できるので、3月や4月に転入した人たちにも支給してはどうか。

【井出市長】

・基準日の設定は必要なことなので、そこをどうするかだけの問題かと思う。また、基準日以降に転入される方についてのフォローは検討する。

質問2

【参加者】

・防災の関係で、断水が続いているところもあるが、市内の水道の老朽化や、今後の対策についてはどのようにお考えか。

【井出市長】

・上水道の耐震適合率は基幹管路で約43%だったかと思う。ただ、基幹管路部分の耐震化は進んでいるが、それ以外の部分の老朽化をどうやって改善していくかが今後取り組まなければならない大きな課題の一つである。しかしながら、改修が水道料金に影響を与えるので、市民の皆さんに水道料金をあげることについてご理解をいただけるかということはある。

・下水道も同じような状況で、だいたい市内に345kmぐらい下水道管があるが、今回の震災で破損まではいかないが約7km直さなければならないところがあり、いかにして前倒しをしながら、国庫負担金・起債を活用し、できるだけ安価に直すかということが重要である。直す手法も、以前は上から掘り起こさなければならなかったが、最近はロボットのようなものを中に入れて、膜を作って補強ができるようになったということも聞いているので、最新の手法等もいろいろ勉強しながら、できるだけ速やかに経費が抑えられるような形で対応したい。

4) 閉会